

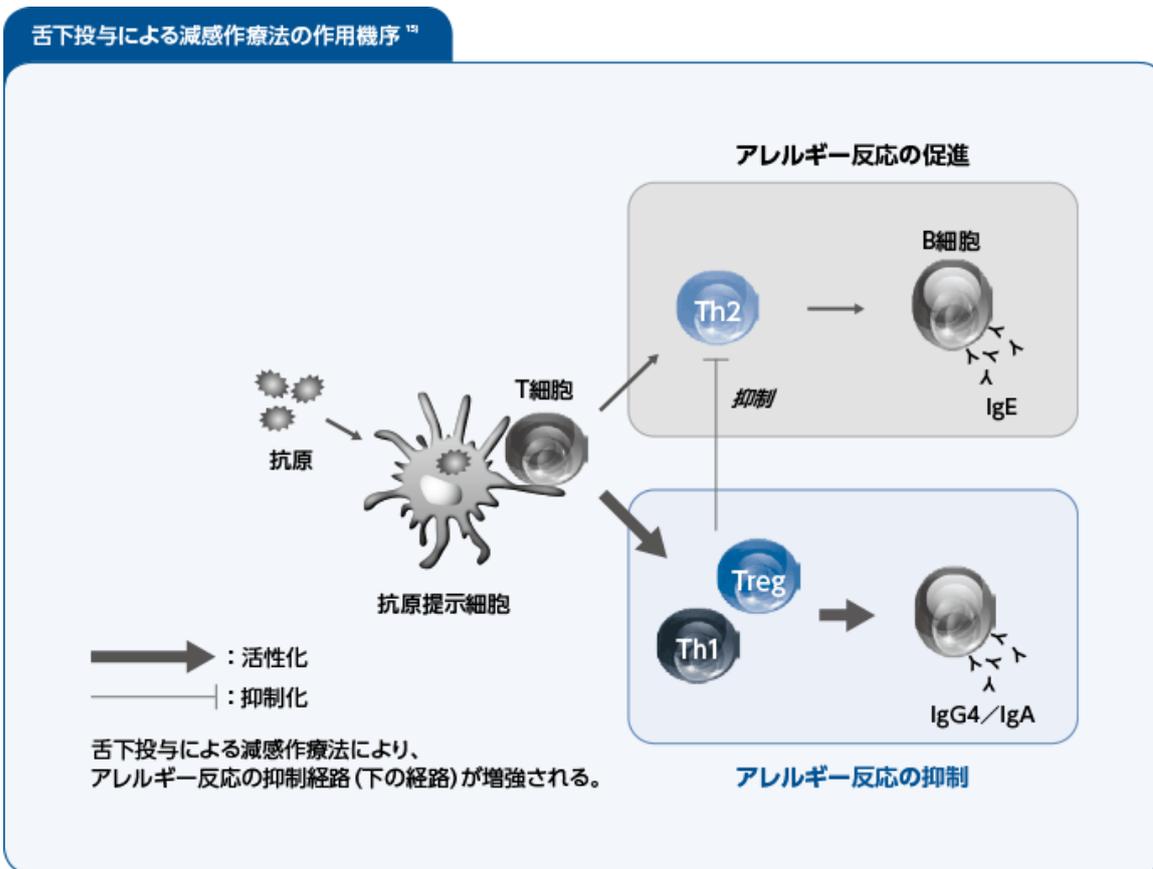
## 第46回 ダニによるアレルギー性鼻炎に対する免疫療法

2018年から、5歳～11歳の小児にも、成人と同様にダニアレルゲン（アシテア錠、ミティキュア錠）による舌下免疫療法が実施できるようになりました。そこで、今回はこの舌下免疫療法について改めてご説明したいと思います。

### 1. 免疫療法の特徴

アレルギーの原因であるダニアレルゲンを舌下内服することでダニ（ハウスダスト）による通年性アレルギー性鼻炎を治したり、長期にわたりアレルギー性鼻炎症状を抑えることが期待される治療法で、**70%前後の患者さんに改善効果が認められます。**免疫療法により、新規のアレルゲン感作を抑制することも報告されています。治療開始前にはダニ抗原によるアレルギー性鼻炎であることの確定診断が必要です。WHO 見解書では、治療期間は、3～5年が推奨されています。効果を維持するため、薬剤を毎日継続して服用する必要があります。

### 2. 舌下投与による減感作療法の効果発現機序（下図）



アレルゲン免疫療法の実施により、大量のアレルゲンが体内に入ると

- ①制御性 T 細胞（過剰な免疫反応をおさえる細胞）が活性化する
- ②Th1 細胞（アレルギー反応をおさえる細胞）が増加する
- ③Th2 細胞（アレルギー反応を促進する細胞）の増加をおさえる
- ④IgE とアレルゲンの結合を妨げる IgG4 など（抗体）が増加する

などの反応が引き起こされると考えられています。このように免疫反応が変化することで、効果を発現すると推測されています。

### 3. 期待される効果

代表的な鼻症状である、くしゃみ、鼻水、鼻づまりを抑えることができます。眼症状では、涙目、目のかゆみを抑えることができます。この結果、アレルギーの治療薬を減らすことが可能になります。更に、症状が緩和することで、集中力が増すなど、生活の質（QOL）の改善も期待できます。

### 4. 治療できない場合とは

重症の気管支喘息がある場合や、この薬剤によりショックを起こしたことがある場合は治療できません（禁忌です）。

### 5. 治療開始に当たっての注意点は

高血圧の薬（非選択的β遮断薬）内服中では、副作用（アレルギー反応）が強くあらわれることがあります。抗うつ薬（三環系やモノアミンオキシダーゼ阻害薬）内服中では、副作用治療のためにアドレナリンを投与したとき、その効果が増強されることがあります。副腎皮質ホルモン剤を内服中では、免疫系が抑制され治療効果が得られない可能性があります。重症の心疾患、肺疾患及び高血圧症の患者さんも、治療可能かは慎重に決定します。

### 6. 舌下免疫療法の方法

ダニ舌下錠は、1日1回舌下で保持し（約1～2分間）、後に飲み込みます（その後5分間は、うがい・飲食を控えます）。初回舌下時は、院内で30分安静にして、状態を観察することが定められています。2回目以降は自宅で舌下できます。飲み込むと副作用がある場合は、1～2分間舌下で保持した後、吐き出しても大丈夫です。2日目以後は増量期で徐々に内服量を増やし、維持期となったら決まった量を1日1回使用します。アシテアは300単位を1錠、ミティキュアは10000JAUを1錠内服します。治療期間は上記の様に3～5年が推奨されています。この期間免疫療法を行うと、中止後も長期にわたり効果が持続するとされています。

#### <内服にあたっての注意点>

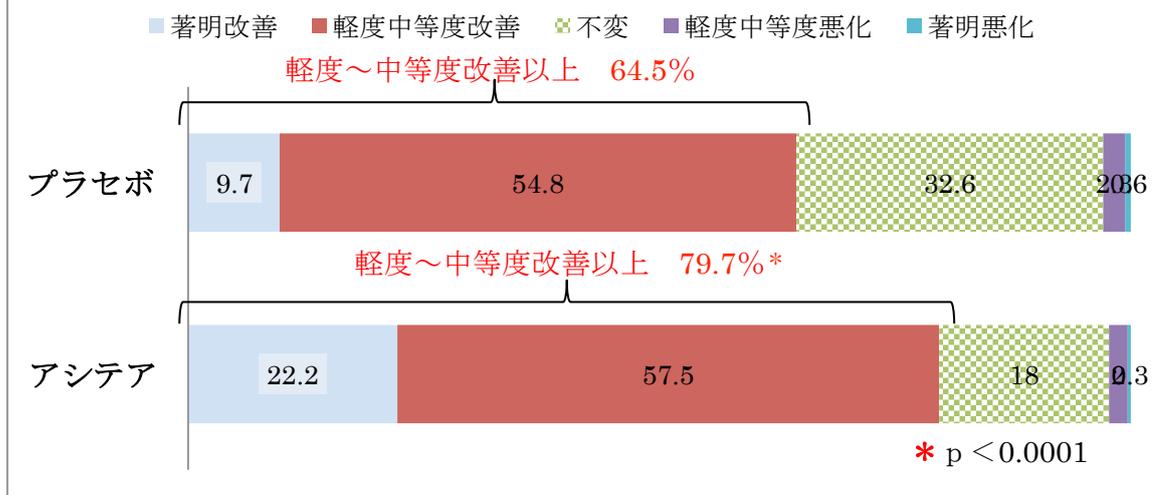
- 内服後、5分間は、うがい・飲食を控えます
- 服用する前後2時間程度は、激しい運動、アルコール摂取、入浴を避けるようにします。
- 自宅での舌下は、日中ご家族がいる時間帯（できればクリニックの診療時間中）が安全です。
- 抜歯後など、口腔内にキズがある場合は、副作用が出現しやすくなるので注意が必要です。

### 7. 臨床効果について

下図は、製薬会社による臨床試験の結果です。成人での軽度以上の改善率は79.7%、小児での軽度以上の改善率は78.8%と、同等に有効でした（プラセボとの比較）。

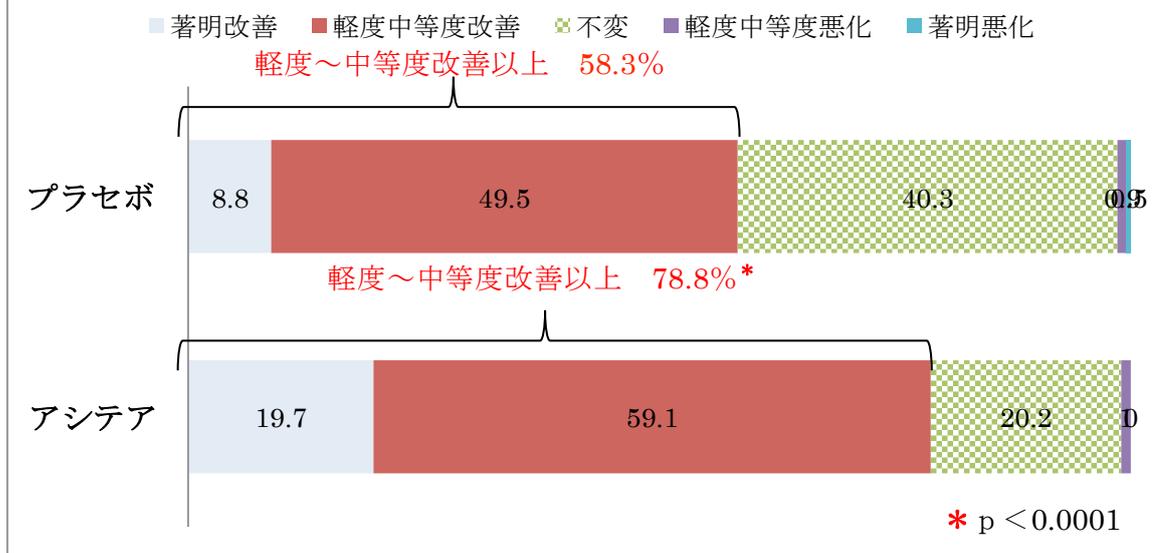
（青年及び成人鼻炎患者を対象とした国内第Ⅱ／Ⅲ相試験 医薬品インタビューフォームより）

## 52週 被験者評価による改善率 (青年・成人)



(小児鼻炎患者 (5歳～16歳) を対象とした国内第3相試験 医薬品インタビューフォームより)

## 52週 被験者評価による改善率 (小児)



### 8. 副作用について

アナフィラキシーショックは皮下注射による免疫療法に比較して非常に稀ですが、海外では1億回の内服で1回程度生じたとの報告があります。その他、咽頭や喉頭の腫れが数%の頻度で、また頻度は少ないですが喘息の発作誘発の報告があり、医師との相談が必要です。その他は、咽頭の刺激感、口腔のかゆみ、耳のかゆみなどが見られますが、多くは自然に改善します。強い症状が続く場合は内服を中止して医師にご相談ください。